日刊建設通信新聞（2014年4月22日付1面掲載）

【ACKG　海外部門を10月に分社　20年、500億達成へ中計強化】

ACKG

海外部門を10月に分社

20年、500億達成へ中計強化

ACKグループ（ACKG）は、2020年に売上高500億円以上を達成するため、現中期経営計画ACKG2013を強化する。その一環として、オリエンタルコンサルタンツの海外事業部門を10月1日付で分社化する。野崎秀則社長は21日の記者会見で、「2、3年はフォローの風が吹く。この間にしっかり投資をして、事業、顧客を開拓しなければいけない」と述べ、基盤強化の方針を示した＝写真。

オリエンタルコンサルタンツは08年8月、パシフィックコンサルタンツインターナショナルから海外事業部門を譲受。現在はGC事業本部が海外事業を担当、人員は約300人で、廣谷彰彦ACKG相談役会長が本部長を務めている。野崎社長は、オリコンサルから分社化してACKGの子会社とすることについて、「判断をスピーディーにする」ことで海外事業を強化すると説明した。

また、上下水道や廃棄物などを手掛けている中央設計技術研究所は、ACKGの子会社からオリコンサルの子会社に移行して、北陸、中部、関西の現営業エリアを全国に広げる。

組織改革の方針として、オリコンサルが国内公共市場、アサノ大成基礎エンジニアリングが国内民間市場、分社化する海外事業会社が海外市場とそれぞれリーディングカンパニーに位置付け、戦略を立てる。

6年後の売上高500億円以上、営業利益20億円以上の実現に向け、従業員数は現在の約1500人から約1・5倍となる2300人に拡大する。新卒や中途採用に加え、M&A（企業の合併・買収）も積極的に実施する。

中計は、インフラ保全や防災など8重点化事業に3年間で10億円の投資を予定しているが、具体的なプロジェクトを詰めてさらに上積みする考えだ。